

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号

42

学校名

可児工業高等学校

<p>学校教育目標 (教育方針)</p>	<p>教育活動のあらゆる場をとおして、知・徳・体・技の調和のとれた地域社会から期待される人間性豊かな工業技術者を育成する。 (1) 基礎学力と専門の知識・技能の確実な定着 (2) 基本的生活習慣の習得と豊かで逞しい心の育成 (3) 産業界の信頼に応える学力の保証と勤労観の育成 (4) 豊かな人間性や社会性の育成</p>	
<p>3つの方針 (スクールポリシー)</p>	<p>どんな生徒を育てたいか 【GP】</p>	<p>①工業技術者としての自覚を高め、基礎学力と専門的知識・技能の定着に基づいた職業観・勤労観を持った生徒 ②地域社会から信頼され、新たな価値を生み出し、未来を拓く創造性あふれる生徒 ③多様な人格を尊重し、豊かな心と健やかな身体を持った生徒</p>
	<p>生徒をどう育てるか 【CP】</p>	<p>①就職や進学に対応した柔軟な選択科目や習熟度に合わせた少人数授業を展開し、タブレット端末などを活用する生徒一人ひとりに寄り添う支援の推進 ②専門的な知識や技術の習得、様々な資格取得のサポートをはじめ、インターンシップ・企業見学を通し、充実したキャリア教育・進路支援の実施 ③地域社会と連携した学校行事、活発な部活動を通して、豊かな人間性や社会性の育成</p>
	<p>どんな生徒を待っているか 【AP】</p>	<p>①ものづくりに興味・関心を持ち、身につけた知識や技術を産業界で活かしたい生徒 ②高校生活に明確な目標を持ち、学習をはじめ資格取得、部活動など学校生活に意欲的に取り組み、自ら成長しようとする生徒 ③規範意識が高く、規則正しい学校生活ができる生徒</p>
<p>学校の抱える課題</p>	<p>・基礎学力の定着を念頭に、多様化する生徒に対してICT機器を積極的に活用した効果的な指導方法を確立するとともに、全職員が共通理解を図りながら連携して指導を行っていく。 ・本校志願者が入学定員を満たさない現状やものづくりコンテストやマイコンカーラリーなどの各種大会へ参加する生徒が減少傾向にあることから、本校で工業を学ぶ魅力をこれまで以上に地域や中学生に発信していく。 ・クラス活動や生徒会活動を活発化することにより、日常の学校生活を充実させ生徒の自立心、自律心を育てていく。</p>	
<p>教育指導の重点</p>	<p>領域・分野</p>	<p>今年度の具体的な重点目標</p>
	<p>学習指導</p>	<p>・ICT機器を積極的に活用し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力および自ら学ぶ意欲や態度を育成する。 ・工業技術者としての自覚を高め、基礎学力と専門的知識・技能の定着に基づいた職業観・勤労観を育成する。</p>
	<p>生徒指導</p>	<p>・教育活動のあらゆる機会をとらえて生徒一人一人を正しく理解し、情報共有と共通理解のもと積極的な生徒支援を推進する。 ・基本的生活習慣身につけさせ、豊かな心と健やかな身体を育成する。</p>
	<p>進路指導</p>	<p>・将来の社会的自立に向けて生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進し、特にインターンシップなどの就業に関わる体験的な学習や、外部の教育力を活用した教育活動を通して、望ましい勤労観や職業観を形成する。 ・産業界から信頼される豊かな人間性や社会性に富んだ人材を育成する。</p>
	<p>安全管理</p>	<p>・「自らの命は自ら守る」という安全意識を醸成するために、生徒への安全教育の充実を図る。 ・工業部組織として「安全教育事業部」を設け、職員間の意識共有とスキルアップを図る。</p>

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学習指導	基礎的・基本的な知識・技能の修得	8	施策Ⅱ-8	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジタイムの実施 ・基礎力診断テストの実施と診断結果の活用 ・ICTを活用した授業の実施 ・姉妹校との交流活動 ・授業公開週間の実施 ・授業アンケートの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各取り組みとも実施・運営にあたり、各職員の協力のもと、滞りなく実施することができた。各取り組みをより有意義なものにするため、学年会や各教科・学科と連携し、改善すべきところを把握し改善に努めていきたい。 ・姉妹校との交流では、コロナ禍後では初となるホームステイでの受け入れとしたが、各家庭にご協力いただき、有意義な交流活動を行うことができた。次年度以降も継続していきたい。 	B
	学習活動におけるICT機器のさらなる活用	9	施策Ⅱ-9				
	外国の言語・文化の理解	11	施策Ⅱ-11				
	授業改善に向けた研修の充実	26	施策Ⅳ-26				
生徒指導	集団生活を行う上で必要な基本的生活習慣の構築	1	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、欠席者数の低減 ・清潔感ある身だしなみ ・人権及び情報モラル教育 ・合理的配慮の共通理解 ・アンケートや面談の実施 ・スクール相談員、ほっとプレイスの積極的活用 ・ヘルメット着用推進を含めた交通安全教育 ・MSL、地域貢献活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、欠席については、コロナ禍が過ぎたことで出席停止の生徒は激減したが、悩みや疲れなど様々な理由で欠席や遅刻が増えている。スクールカウンセラーやスクール相談員へ気軽に相談できる体制づくりを推進する。 ・人権教育やいじめ防止に向けた教育など心の教育を推進する。 	B
	思いやりの心、ならびに協調性を高めさせる指導の充実	3	施策Ⅰ-3				
	生徒理解を深めるための積極的な教育相談体制の充実	21	施策Ⅳ-21				
	命の大切さや自己有用感が感じられる働きかけの充実	7	施策Ⅰ-7				
進路指導	外部講師を活用した進路ガイダンス等の充実	14	施策Ⅱ-14	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の進路実現達成状況 ・就職、進学活動への積極性 ・インターンシップ実施企業等からの評価内容 ・学校ホームページの充実 ・進路希望別模試の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生は積極的に就職活動または進学活動をし、就職希望者および進学希望者が全員進路先を決定することができた。 ・希望する進路に合わせた個別学習への取り組みを強化していく必要がある。 ・インターンシップ先からはおおむね高評価をいただくことができた。 ・進路希望調査の結果から個別に生徒へ情報提供を実施した。 	B
	主体的に進路を決定するための確かな学力の定着	8	施策Ⅱ-8				
	地域と連携したインターンシップ・企業見学の充実	13	施策Ⅱ-13				
	進路指導に関する適切な情報発信	20	施策Ⅳ-20				
安全管理	ヒヤリ・ハット事案の報告と情報共有の推進	19	施策Ⅲ-19	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理上の問題の素早い情報共有 ・運動部指導者の積極的な活用 ・日頃の生徒の体調確認と各種感染症および熱中症予防の啓発 ・各科のスキルアップ講座 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・県工業部会の研究テーマは「安全教育と新学習指導要領に基づく工業教育の実践」であり、本校も「安全教育推進事業委員会」を立ち上げたが、ほぼその委員会活動ができなかった。 ・実習時における生徒の事故・怪我が2例発生し、B科の事例は県教育委員会への報告の後、県教委からの安全対策指示を受けた。このような事例を繰り返すことなく、安全な専門実習の実践に向けた取り組みを行うことが重要である。 	C
	部活動における部顧問と運動部指導者の協力体制の充実	25	施策Ⅳ-25				
	各種感染症や熱中症予防に対する取組の推進	18	施策Ⅲ-18				
	機械や道具の安全な取扱い方法の理解など、自己のスキルアップに努める取組みの推進	14	施策Ⅱ-14				

来年度に向けての改善方策等

・入学希望者獲得に向けて、オープンキャンパスや一日体験入学、各中学校における学校説明会やPTA見学会など、様々な活動を行っているが、中学生によるアンケートの結果を踏まえ、工業科目の学習内容の紹介など、中学生のニーズに合わせた取り組みをしていきたい。

・交通安全について自転車通学者は全学年ヘルメット所持必須化とし、着用推進に務める。生徒が主体となり校則見直しを進め、生徒一人一人が生き生きと充実した学校生活を送れるよう指導していく。遅刻、欠席の減少を目指した取り組みを継続的に実践する。

・企業や大学等担当者と生徒が直接話ができる進路ガイダンスを更に増やして充実させていくことで、生徒の進路意識を高めていく。また、進路希望別模試を生徒へ案内および実施し、個別に対応しながら生徒が希望する進路決定ができるように支援していく。

・安全管理について、本校の実習や専門部活動における過去の事故事例の調査とその情報共有を行う。また、実習直前に行っている安全教育のブラッシュアップや、生徒の怪我や事故に繋がる恐れのある設備の取扱いに関するマニュアルの作成と指導教員のスキルアップを実践する。

学校関係者評価

実施日：令和7年1月24日

・求人倍率の高さや卒業3年後の離職率の低さなどから、地元企業からの信頼を得て、きめ細かい進路指導がなされていることが窺える。産学連携事業を今後もより一層強化し、地元産業の発展ならびに地域の活性化に貢献する人材育成に、今後も積極的に取り組んでほしい。

・ワークショップを始めとした地域との連携事業について、学校のPR効果と職員の働き方改革のバランスを取りながら、より良い実施日時や方法を模索していく必要がある。

・今年度から始めたInstagramによる情報発信は、ターゲットを明確化するとともに、日常の高校生活や学校の取り組みなど、地域の中学生在に興味を持つ内容が増えるといい。

・地元企業に出向いての安全教育は、大変良い取り組みである。できれば、生徒のみならず多くの職員も参加させていたなどとして、学校をあげて安全に対する意識向上を目指してほしい。

・昨年度から始めたという、生徒を対象にした「学校満足度アンケート」は、その結果をもとに取り組みを振り返り、今後の学校運営に活かしていけると良い。